

gakuto

学塔



2010.Autumn

No.126



クローズアップ

自著を語る「新魚類解剖図鑑」

これだけは読んでおきたい

各学部の先生からのオススメ本

ブックロウのPick Upコーナー!!

「札幌ミカエル教会」と
アントニン・レーモンド展を
開催しました

緑のカーテンプロジェクト

News!

秋の講習会のお知らせ

特集 使ってみよう!
三重大内の学習スペース

自著を語る。



まだまだ、わからないことの方が多いです

先生の研究について教えてください。

現在は魚類の分類学的研究が主体です。特に東南アジア域、太平洋、インド洋といった暖かいところの魚の分類学的研究です。

はじめは魚の生活史、水中で魚がどうやって暮らしているのかという事が、一番の興味でした。陸上の生き物なら観察していただけますが、魚はボンベをつけて潜っても二日二時間二時間しかできないし、だから余計にどうやって生きていっているのかという興味がありました。

そのような生態学の研究の一環で、東南アジアの魚の生態を調べる機会があり、インドネシアに行きました。さて、調べようと思ったのですが名前がわからないんです。向こうの人も知らない。図鑑も

作が好きだったんですよ。自分の将来はこれだなあと思っていました。

それが高校生になって変わりました。クラブの展示で、生物部があつて、魚の標本を置いてあったのですが、それが間違っていたんですよ。魚釣りが好きだったので、図鑑で調べていたのですが、ここが違うとか、あれが違うとか、言っていたら生物部に入ることになりました。魚のこと、電気のこと、どっちが本職でどっちが趣味か、ここで入れ替わりました。

大学は、魚をやるなら水産系かなと思つて三重大学の水産学部を選びました。三年生の時に、水族館をやるうと言つて、先生方にくつつか水槽を借りて行きました。学祭で水族館をやつてから、「ああ、ずっとこういう仕事ができたらいいな」と思うようになりました。

よりわかりやすく、ビジュアル化

「著書『新魚類解剖図鑑』についてご紹介をお願いします。



志摩市にある水産実験所。真珠養殖で有名な英虞湾の中央部にあり座賀島に位置しています。



日本学術振興会のプログラムでマレーシアのポートディクソンで現地学生に魚の説明をしているところ。

水産実験所での臨海実習の様子。

【木村清志先生プロフィール】

三重大学水産学部卒業後、同大学院水産学研究科修了。1978年～現職。1982年、京都大学農学博士。専門は魚類分類・系統学、魚類・資源生物学。毎日志摩の海を見て研究・教育を行っている。主な業績に、Revision of the genus Nuclequula with descriptions of three new species (Perciformes : Leiognathidae). Ichthyological research formerly Japanese Journal of Ichthyology. 共著。2008, vol. 55, no. 1, p. 22-42., Redescriptions of the Indo-Pacific atherinid fishes Atherinomorus forskalii, Atherinomorus lacunosus, and Atherinomorus pinguis. Ichthyological Research. 共著。2007, vol. 54, no. 2, p. 145-159.などがある。



『新魚類解剖図鑑』

〈緑書房 2010.6〉
【所在】図・開架・図書
【請求記号】487.51/Sh 62

木村清志 先生

生物資源学研究科附属施設
附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター
附属施設水産実験所教授

魚の学習や研究に必携の『新魚類解剖図鑑』。写真やイラストが満載！
監修をされた木村先生にお話を伺いました。

ない。熱帯魚のようにきれいな魚の図鑑はたくさん出ていましたけどね。
こんな状態で生態なんて調べられるわけがない。もつと基礎の分野をやらなければならぬと思ひ知らされました。それで分類学的な仕事をやり始めました。それでもまだ、わからないことの方が多いですけどね。

原点は、子どものころの魚つり

子どものころからお好きだったのでしょうか。

そうですね、子どもの時から魚は好きでした。釣りとか、親に連れて行つてもらいました。夏休みには用水路で魚取りを覚えました。私が魚を好きになった基礎、原点ですね。でも小学生、中学生のときは電子工学、電気工

この本は分類の本ではないですが、魚の形態、分類、生態を調べるにはやはり解剖学が必要になります。お医者さんが人間の体を調べたり治療したりするのに解剖学の知識がないとできないのと同じで、私たちが魚の骨や内臓のつくりがわかるといえないとできないんですよ。

「新」魚類解剖図鑑とあるようにこれには旧版があります。旧版を直した部分もありますが、概説部分は新しく書き下ろしました。

それに加えてカラー写真をふんだんに掲載しました。スケッチも、もちろん大事なところもあるのですが、具体的な事実に対する説得力というのは、やっぱり写真の方が高いですから。

積極的に自分をアピール

三重大学生にメッセージをお願いします。

三重大学生はおとなしいと言うか、シャイな人が多いですよ。もつとみんなの前で自分の実力をアピールする力があると思います。虚勢を張るのではなく、自分にあつたアピール力を身につけてほしいです。私たちの時は、まじめにやっていたら誰かが見てくれるって思っていましたけど、最近自分アピールしていかなくてははいけないかもしれませんね。

READING LIST

これだけは読んでおきたい!!各 学部の先生からのオススメ本

人文学部 堀内義隆先生

安富歩、本條晴一郎 著
『ハラスメントは連鎖する: 「しつけ」「教育」という呪縛』
光文社
【所在】図・開架・図書
【請求記号】361.5/Y 66

教育学部 松本昭彦先生

佐竹昭広 著
『古語雑談』
平凡社
【所在】図・開架・PB
【請求記号】814/Sa 83

医学部 小川朋子先生

ロバート・カーソン著:
池村千秋訳 著
『46年目の光:視力を取り戻した男の奇跡の人生』
NTT出版
【所在】図・開架・図書
【請求記号】289.3/Ma 98

工学部 大山 航先生

Dennis E. Shasha著:
吉平健治訳
『プログラマのための論理パズル:難題を突破する論理思考トレーニング』
オーム社
【所在】図・開架・図書
【請求記号】007.64/Sh 13

“考える力”“問題解決能力”“柔軟な発想と応用”
社会が学生に求める能力は、時代とともにどんどん高くなっていく。残念ながらこれらのチカラを鍛える方法に王道はない。くりかえし、くりかえし、訓練を積み重ねない。でも、少しでもラクに楽しく鍛えたいと思うよね。そんなときにはこの本のパズルがおすす。プログラマを目指す学生に限らない、全ての学生に「論理的思考力」を!

生物資源学部 奥村克純先生

D・サダヴァ他著:
石崎泰樹、丸山敬監訳・翻訳
『カラー図解アメリカ版大学生物学の教科書(1巻:細胞生物学、2巻:分子遺伝学、3巻:分子生物学)』
講談社
【所在】図・開架・図書
【請求記号】460/Ka 64/1-3

近年の生物学における研究の進展や社会への影響は著しく、文系の学生でも生物を知ることが人間社会を考えるうえで必須である。本書は、米国MITで文系理系すべての学生必修の一般教養指定教科書『LIFE』から抜粋した精髓3分野の翻訳書である。図や説明も明解かつ奥深く、細胞と生命の基本、生命の設計図、生物学の応用のすべてがわかる世界基準の教科書。ぜひ読んで現代生物学を概観しよう。

共通教育 荻原 彰先生

キャロル・オブ著:
北村陽子訳
『チョコレートの真実』
英治出版
【所在】図・開架・図書
【請求記号】617.3/O 19

甘くおいしいチョコレート、しかしその原料のカカオ豆は、人身売買され、奴隷として働く発展途上国の子どもの労働によって支えられている。低コストの児童労働によって莫大な富を築き上げた巨大多国籍企業の実態を詳述している。ここに描かれていることがすべてのカカオ豆生産にあてはまるわけではないにせよ、何気なく食べているチョコレートに潜む闇の部分を考えさせてくれる。

使ってみよう！三重大内の学習スペース

特集

一人で集中して。時には友達と一緒にワイワイと。勉強する場所も目的によって変えていくのがこれからの主流！
 三重大には、色々なケースに対応できる学習スペースが用意されています。今回はその一部をご紹介します！自分好みの「勉強部屋」を探してみませんか？

共通教育棟3号館(十字校舎) ラーニング・コモンズ

月～金 8:00-19:00

▼グループでも一人でも勉強できます



▼プロジェクターを使ってプレゼンの練習



▼机やイスは自由に動かすことができます。



他の学習スペースとは雰囲気が異なることを意識し、学生の皆さんが快適に学習できる空間を目指して設計しました。



ラーニングコモンズのデザインに関わった柴山依子さん(工学研究科)

▲本もあります。ラーニング・コモンズ内で利用できます。

共通教育棟1号館 自習室

月～金 8:00-21:00

▲静かに集中して勉強できます。



▼カウンターでお待ちしています。



医学部 図書館

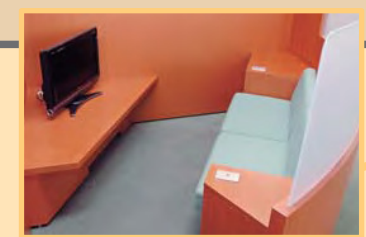
月～金 9:00-17:00
 医学部学生は通年9:00～24:00利用可能



▲医学の専門書・学術雑誌が豊富。



▲全学部の学生が利用できます。



▲映像資料も見られます。



▲グループでの勉強は共同学習室が便利！



▲パソコンもあります。情報検索やレポートの作成もばっちり。



▲資料の多さは図書館がいちばん。入門書から専門書までそろえています。

図書館

月～金 8:45-21:45
 土・日・祝日 9:00-18:30

このページで紹介したのは学習スペースのほんの一例です。ほかにもたくさんの学習スペースがあります。大学内の学習スペースは高等教育創造開発センターのホームページで一覧できます。

高等教育創造開発センター「学習支援のリソース」 <http://www.hedc.mie-u.ac.jp/resources-learning.html>

特集

特集



ブックロウの Pick Up コーナー!!

図書館のホームページ
<http://www.lib.mie-u.ac.jp/>
から Check it out !!

「札幌聖ミカエル教会」とアントニン・レーモンド展を開催しました

アントニン・レーモンド(1888—1976)はチェコ生まれ、建築家の生涯の殆どを日本で送り、日本の近代建築に大きな足跡を残しました。登録有形文化財となっている三重大学のレーモンドホール(旧三重県立大学図書館)もレーモンドの作品です。この展示会(9月14日~25日、三翠ホール)はレーモンドホールなど、その代表的な木造建築の魅力を伝えるもので、あわせてレーモンドホールの特別公開も行われました。展示会の準備や運営には、建築を専攻する学生院生の意欲的な参加がありました。



緑のカーテンプロジェクト



緑のカーテンとは、窓の外側にツル性植物を生育させることにより、日差しをさえぎり、室内の温度上昇を抑える「自然のカーテン」の事です。夏の暑い日に、葉っぱの間をすり抜けてくる涼しい風は天然のエアコンの代わりになります。図書館でも特に日差しが強い窓面にアサガオ、ゴーヤ、キュウリ、フウセンカズラを植え、緑のカーテンづくりに取り組みました。



図書館に本が並ぶまで

三重大学の図書館が、年間約1万冊以上の本を受け入れていることを知っていますか？
今回は新しく購入した本がどのような流れを経て棚に並ぶのかを紹介します！



※このページはインターンシップの一環で伊藤さんが作成しました。ありがとうございました。

図書館からの質問

- ①簡単な自己紹介をお願いします。
- ②印象に残った仕事、おもしろかった仕事があれば教えてください。
- ③図書館の仕事を体験して、これまで持っていた図書館のイメージと違っていったところがあれば教えてください。
- ④感想をお願いします。



- ①工学部3年伊藤嘉純です。主にコンピュータの事を勉強しています。画像処理に興味があります。
- ②返却された本を棚に戻す仕事です。1日で大量の本が返却され、それを1冊1冊番号順に戻すのはとても大変な仕事でした。正しく本が置かれているのがあたりまえだと思っていたので印象に残っています。
- ③雑誌の取り扱い、遡及、機関リポジトリなど知らないサービスが多くありました。それらのサービスはこれから有効活用したいと思います。また、図書館で何かわからなければ、職員の方に聞けば教えてくれますよ、というのもみなさんに知ってみたいです。
- ④図書館のことはもちろん、働くことの大変さも楽しさも知ることができ、充実した5日間でした。



秋の図書館講習会を開催します!

	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI
	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22
10:30~	国内	海外	海外	レポート	プレゼン
14:40~	レポート	プレゼン	新聞	国内	海外
	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29
10:30~	新聞	国内	プレゼン	海外	レポート
14:40~	海外	レポート	国内	プレゼン	国内
	11/1	11/2	11/3	11/4	11/5
10:30~	プレゼン	レポート	—	新聞	—
14:40~	国内	海外	—	プレゼン	—

実施期間・内容は左の日程表で確認してください。
当日参加も大歓迎です。ふるってご参加ください!

時 間：午前10:30~、14:40~

予約優先：参考調査カウンター・電話・E-mailにて
お申し込みください

連絡先：附属図書館参考調査担当(情報リテラシー)
(電話)059-231-9089
(メール)literacy@ab.mie-u.ac.jp



- 国内** ← CiNiiを使って国内の文献を探します(90分)
- 海外** ← Web of Scienceを使って海外の文献を探します(90分)
- レポート** ← レポートの書き方の入門です(90分)
- プレゼン** ← プレゼンテーションをするための入門です(90分)
- 新聞** ← データベースを使って新聞記事を探します(30分)

展示図書コーナー新着図書

(2010年1月~6月発行分)

- 畑中重光 副学長／『やさしい構造材料実験』谷川恭雄著者代表、森北出版、2010.4 [511.4/Y 61]
- 廣岡義隆 人文学部名誉教授／『行幸宴歌論』(研究叢書)廣岡義隆著、和泉書院、2010.3 [911.12/H 71]
- 水越允治 人文学部名誉教授／『古記録による13世紀の天候記録』水越允治編、東京堂出版、2010.5 [451.916/Ko 43]
- 尾西康充 人文学部教授／『破壊から再建へ：1947・8-1948・7』(占領期雑誌資料大系；3)山本武利編者、岩波書店、2010.3 [910.5/B 89/3]
- 小川眞里子 人文学部教授／『自然界における両性』アントワネット・ブラウン・ブラックウェル [著]；小川眞里子、飯島亜衣訳、法政大学出版局、2010.6 [491.35/B 52]
- 児玉克哉 人文学部教授／『「みじめなアル中」から奇蹟の人へ：長戸稔の半生』児玉克哉編、イリス総合研究所、2010.4 [289.1/N 24]
- 田中亜紀子 人文学部准教授／『日本現代史論：近代から現代へ』山中永之佑 [ほか] 編、法律文化社、2010.3 [322.16/N 77]
- 田中亜紀子 人文学部准教授／『日本の社会事業：社会と共同性をめぐって』元村智明編著、社会福祉形成史研究会、2010.3 [369/Mo 86]
- 藤原和好 教育学部名誉教授／『語り合う文学教育：子どもの中に文学が生まれる』藤原和好著、三重大学出版会、2010.2 [375.8/F 68]
- 上垣 渉 教育学部教授／『日本数学教育史』中谷太郎著；上垣渉編、亀書房、2010.6 [375.4/N 77]
- 富樫健二 教育学部教授／『運動生理学』(エキスパート管理栄養士養成シリーズ；16)山本順一郎編[富樫健二(執筆)]、化学同人、2010.4 [498.5/E 42/16]
- 重松良祐 教育学部准教授／『中高年者の元気長寿のための運動プログラム』重松良祐(ほか)編集、ナッパ、2010.6 [781.9/C 64]
- 重松良祐 教育学部准教授／『中高年者の疾病予防・改善のための運動プログラム』田中喜代次(ほか)編集、ナッパ、2010.6 [781.9/C 64]
- 富岡義人 工学研究科教授／『自然の家』フランク・ロイド・ライト著；富岡義人訳、筑摩書房、2010.1 [527/W 94]
- 三井昭二 生物資源学研究科教授／『森林社会学への道』三井昭二著、日本林業調査会、2010.6 [651/Mi 64]
- 内山智裕 生物資源学研究科准教授／『農産物直売所の機能分析：鈴鹿ファーマーズだいち(鈴鹿市)、ベルファーム農家市場：2009(平成21)年度「社会調査演習」報告書』[三重大学]、2010.3[611.46/N 97]
- 吉村英夫 元共通教育非常勤講師／『山田洋次を観る』吉村英夫著、リベルタ出版、2010.1 [778.21/Y 91]

【見かた】 ● 寄贈者 所属／『書名』著者名、出版社、出版年月[請求記号]

※※ 編集後記 ※※



● 表紙の写真：新聞コーナーで情報収集をする学生さんです。図書館にはたくさんの新聞が揃っています。社会でどんなことが起きているのか、ぜひチェックしに来てください。

記録的な猛暑が続いた夏でしたが、昨年度末に閲覧室の空調設備を一新したことで、涼しく快適なフロアで勉強していただけたのではないのでしょうか。本号の特集でも取り上げたとおり、学生の皆さんのための学習スペースを提供することが、図書館の大きな役割のひとつです。先日視察したオーストラリアのタスマニア大学では、図書館を、学習に必要な資料・設備・人的サービスを、ワンストップで提供する「Learning Hub」と位置づけ、大改造している最中でした。三重大学附属図書館でも、開館時間の延長や学習用パソコンの導入、情報検索講習会など、様々なサービスの提供、その向上に努めています。どうぞ、図書館を自分の勉強部屋としてフル活用してください。